

学校づくりリーダーのためのアクティブラーナーズサミット2018

主催 東京大学大学総合教育研究センター教育課程・方法開発部門
一般財団法人日本教育研究イノベーションセンター(JCERI/河合塾グループ)

2018年3月21日(水・祝)12:30~18:00

場所:東京大学 伊藤国際学術研究センター

【第3部】テーマ別分科会(15:15~17:15)

2.「教科を超えるマナビの挑戦! :教科横断カリキュラムの可能性」

カリキュラム・イノベーションに向けた

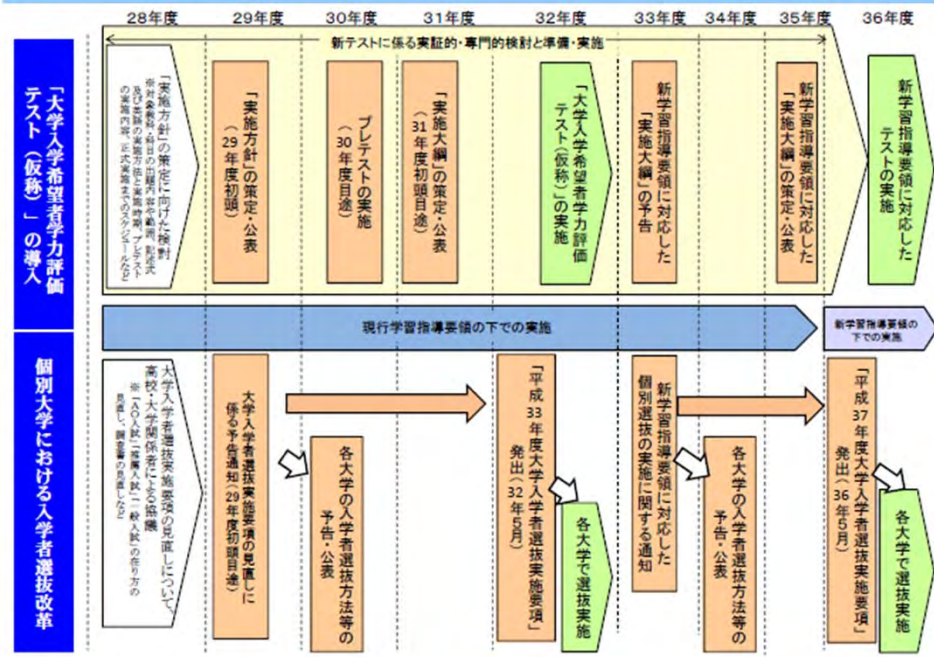
教科横断の可能性と課題

小玉重夫(東京大学)

背景

- * センター試験の廃止(後掲資料は、高大接続システム改革会議「最終報告」2016. 3. 31. より)
- * 18歳選挙権(後掲資料は2016年総務省ポスターより)
- * 学習指導要領改訂

【具体的方策】3. 大学入学者選抜改革



私たちの声を、私たちの将来に。

国政選挙は 2016.6.19 (土) 18歳以上から 公示される選挙から

選挙権年齢が18歳以上に。

将来を担う若い世代の声をこれまで以上に政治に取り入れるために引き下げられます。18歳以上20歳未満の約240万人が新たに投票できるようになります。

全国でシンポジウム・ワークショップを開催！

私たちのメッセージをホームページで発信！

エクスプロージョン最新作「選挙権の変」WEBで公開中!!

詳しくはこちらをご覧ください。18歳選挙権

総務省

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)2016. 12.

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない*

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

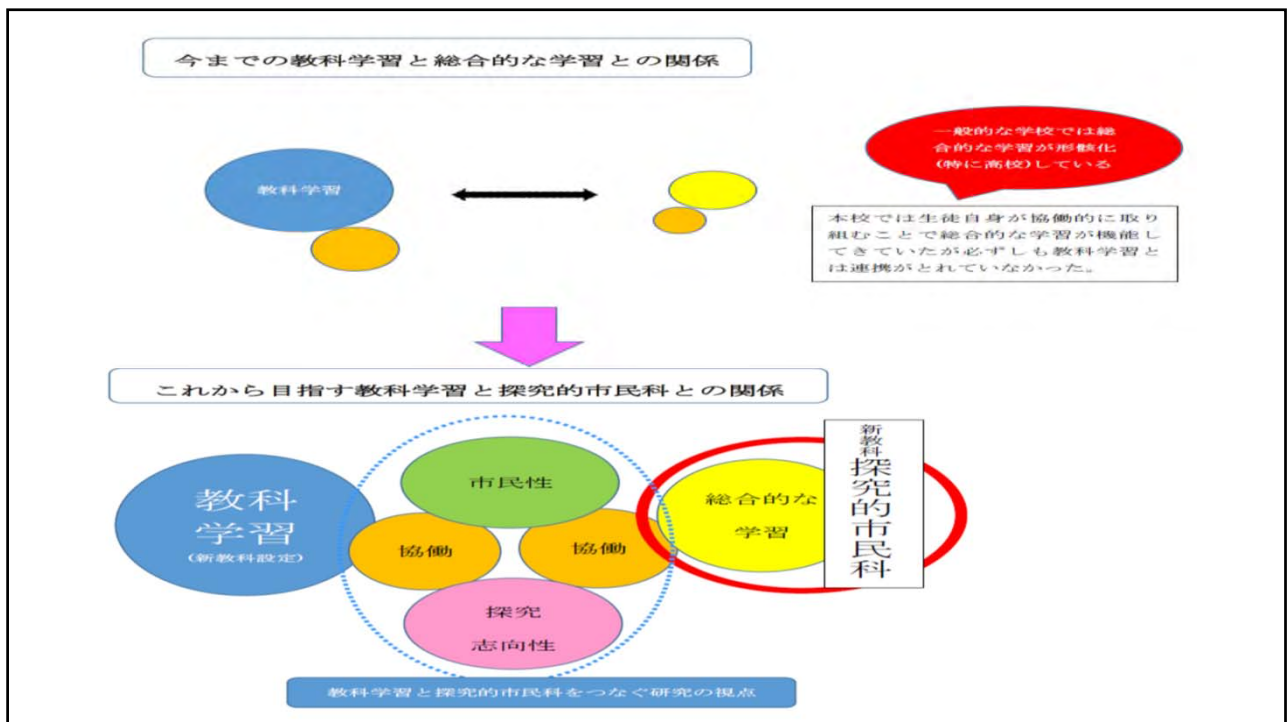
生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

東大附属中等教育学校の探究的市民科

- * 総合学習入門 1-2年
- * 課題別学習 3-4年
- * 卒業研究 5-6年

次のスライドは同校が用いた研究のデザイン図



教科を社会に開く

- * 大畑方人先生 都立高島高校 地域研究(高島平の政策提言)と主権者教育=高3の政治経済 都立高校学校設定教科「人間と社会」での地域社会研究とリンク
佐々木宏先生 都立日野台高校 高校生がactorになる古典の授業

両者とも、教科を受験とアカデミズムへの従属から切り離し、社会に開かれたものにする点で共通 「人間と社会」などの教科横断カリキュラムは教科を社会に開かれたものにしていくための触媒

- * →教科横断型カリキュラムの形成は目的ではない

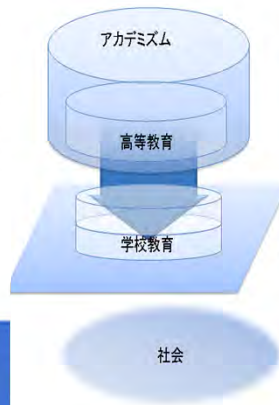
カリキュラム・イノベーション

(図の作成にあたっては、河野麻沙美氏の協力を得た)

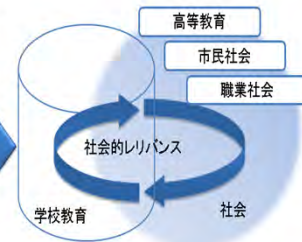


東京大学教育学部
カリキュラム・イノベーション研究センター

新しい学びの形へ向け
カリキュラム・イノベーション



カリキュラム・イノベーション



「アクティブラーニングの時代」の、
真に新しい
カリキュラムの形とは？

社会的意 義ある教育の姿を、東京大学教育学部が
総力を結集して探求する。

東京大学教育学部